

鳴門の和泉層群中のデュプレックス

Duplex in the Izumi Group in Naruto, Tokushima

断層



●写真1

和泉層群の砂岩泥岩互層中のデュプレックス（中央部）。

このデュプレックスは国内に知られているデュプレックス構造の中で最も教科書的なもので、大変貴重な露頭です。白亜系和泉層群の砂岩泥岩互層中に見られ、ルーフ衝上断層とフロアー衝上断層に挟まれて同一層準の地層が少なくとも17回繰り返しています(写真1)。このデュプレックスでは、ルーフ・フロアーとも、60°程度右(東)に傾斜し、見かけの上側が下降した正断層のような変位を示しています(写真1)。このデュプレックスは、周辺の地層も含めてほぼ水平であった時に衝上断層に伴って形成され(写真2、図1)、その後、全体が時計回りに回転して右に傾斜したと考えられます。このデュプレックスは、断層で囲まれた個々のブロック(ホース)の長さよりも個々の衝上断層の変位量が小さいため、後背地傾斜デュプレックスに分類されます。

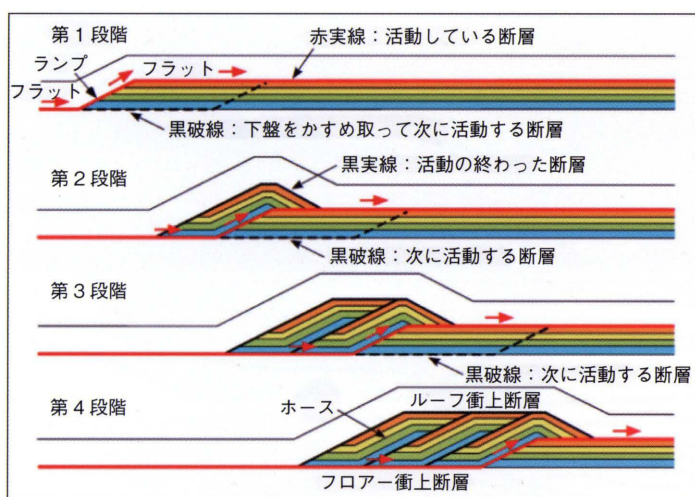
文献：全国地質調査業協会連合会，地質情報整備・活用機構編，2010，日本列島ジオサイト 地質百選II，オーム社，126-127。

Boyer, S. E. and Elliott, D., 1982, Bull. Amer. Assoc. Petrol. Geol., 66, 1196-1230.



●写真2

回転前の鳴門の衝上性デュプレックスの形成.



●図1

デュプレックスの形成過程
(Boyer and Elliott, 1982 を改変).



場所：徳島県鳴門市中山

($34^{\circ} 12' 18'' \text{N}$, $134^{\circ} 34' 18'' \text{E}$)

交通：高松自動車道鳴門ICから国道11号を高松方面へ約4km、県道42号との交差点を鳴門方面へ曲がり、最初の信号を右に曲がって少し行った左手の採石場跡。

地図：国土地理院 1/25,000 地形図「坂東」

●写真・解説：村田明広